

令和5年度（一社）美しい伊豆創造センター事業計画

○伊豆半島観光戦略推進（DMO）事業

1. 事業概要

伊豆半島グランドデザインの推進組織として、伊豆半島の観光地域づくりにおける課題解決に向けた取組を実行するとともに、伊豆半島ジオパーク事業と関連付けた事業を展開する。また、連携する域内関係者のすそ野を広げ、域内全体の観光地域づくりを推進する。

2. 事業目的

伊豆半島グランドデザインや、令和4年度策定の中期活動方針に基づく取組を進め、伊豆半島における新しい観光テーマの創出や流通促進を図るため、特定テーマに即した観光コンテンツをターゲットに響く企画・商品化に係る取組を実施し、域内の観光消費額拡大に努める。

また、伊豆半島地域のブランド力向上と地域経済への波及、また食資源や地域の文化を取り入れた新たな観光商品の造成を目指す。

3. 事業効果

各事業で指標（目標）を定め、その達成度合いと推進事業の検証を行い、より効果的な事業への転換を図る。

「サイクリングリゾート伊豆」の全国発信や他団体・企業との連携イベントの実施による、伊豆でのサイクリングの魅力や、従来型の観光PRや物産販売に留まらない伊豆半島の魅力を総合的に発信することにより、ブランド力向上に加え、事業関係者だけでなく宿泊施設や飲食店等への経済波及効果が期待できる。

4. 主要事業

（1）ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業

- ・ジオパークの恩恵を最大限に活用し来訪者と生活者の満足度向上に貢献するための取組を展開するため、令和4年度中に策定した組織の根幹となる経営理念、ブランドスローガン「ジオの恵み 住む人来る人に(案)」及び中期活動方針に基づき、ツーリズムの推進や地域課題に取り組む。

・サステナブルツーリズム推進事業

令和4年度に実施した企画商品（モニターツアー）の展開やジオガイドおもてなしスキルアップに向けた取組の推進、アドバイザーによる研修への参加等

・観光に関する住民満足度調査【新規】

生活者の満足度向上に貢献するため、観光に関する伊豆地域の住民の意識を調査

(2) 観光総合開発事業

・旅行プログラム施策及び流通促進事業（R4：観光コンテンツ商品開発事業）

静岡県観光協会と連携した魅力的な素材を活用した観光コンテンツ・商品開発の支援（関係業者との連携）、ジオ教育プログラムのセールス及びセミナー、現地視察の実施、新しい団体旅行プログラムの策定及び教育プログラムの流通促進、伊豆の旅コンテストの実施【新規】

・観光事業者採用支援事業

伊豆半島ホテル温泉旅館合同会社説明会の開催、首都圏・静岡県内大学・専門学校への就職斡旋情報提供、留学生マッチング相談会開催

・ワーケーション推進事業

伊豆半島におけるワーケーションの取組みを後押し
関係人口増加による、移住・定住の促進

・伊豆半島満足度調査事業【新規】

伊豆半島の経済構造を人々の満足度の観点から多面的に把握し DM0 運営に活用

(3) 伊豆半島サイクルフレンドリー事業

・サイクリングリゾート伊豆PR事業

・伊豆半島一周サイクリング開催事業

・E-bikeの聖地化推進事業

事業者と提携をしたE-bikeツアーの実施やE-bikeをテーマとしたプロモーション動画を作成する。

・サイクリングエリア交流事業

・風景街道活用事業

「なごみの伊豆なごみの道風景街道」にちなんだ道の駅を核としたサイクリング等のPR動画を作成する。

・国際ロータリークラブ3480地区自行隊やエロイカジャパン※との連携

※ヴィンテージ自転車イベント

(4) 地域ブランド化事業

・伊豆半島魅力コンテンツの強化事業（R4：伊豆半島食コンテンツ強化事業）

産品・観光両面でのファン拡大や産業振興を目指した物産展、ECサイト等

・食資源による魅力発信事業

伊豆の自慢のプリン情報発信

○国内観光誘客事業

1. 事業概要

伊豆の主要マーケットである首都圏等での観光キャンペーンの開催、また国内で開催される大型観光展等に出展し、地域外へ伊豆の魅力をPRする。静岡県大型観光キャンペーン推進協議会主催のふじのくにしずおか観光大商談会への参加、交通事業者等と連携したエージェントセールスなどを積極的に実施し、継続して観光交流のプロモーションを実施していく。

2. 事業目的

伊豆半島全体を面と捉え、ブランドスローガン「ジオの恵み 住む人来る人に(案)」のもと、自然・食・歴史・文化といった地域の豊かな観光素材を外へ発信していくことで、地域全体の観光来遊客数の増加を図る。

3. 事業効果

伊豆半島全体を面と捉えた広域の観光PRを実施することで、来遊客を地域全体に周遊させることができる。

4. 主要事業

- ・国内観光展への出展及びJR主要駅等での観光プロモーション、セールスの実施
- ・ふじのくにしずおか観光大商談会（東京・名古屋・大阪）の参加及び交通事業者等と連携したメディア・エージェントセールスの実施
- ・JRグループ及び旅行会社主催のエージェント説明会に積極的に参加し、商品造成の依頼及び伊豆への誘客促進を図る
- ・伊豆総合パンフレットの増刷
- ・渋滞緩和支援（夜コンテンツHP特集）の推進【新規】
夜景、星空特集等の特集をHPに掲載し、滞在時間の延長による渋滞緩和に繋げる取組みを推進する。
- ・大河ドラマ「どうする家康」関連及び「鎌倉殿の13人」継承に関する事業の推進
- ・ペットに優しい伊豆の旅（ペットツーリズム）PR【新規】を推進し、ペットと宿泊可能な施設が点在する伊豆半島の魅力を発信する。

○インバウンド（外国人観光客等誘客）事業

1. 事業概要

市町境にとらわれず伊豆地域全体を包括的にPRすることによって、海外における伊

豆地域全体の認知度を向上させるとともに、実際の来訪につなげることができるよう地域の旅行商品の開発や旅行会社等を通じた商品の販売促進を実施する。

2. 事業目的

国内の人口減少が見込まれる状況を踏まえ、訪日外国人旅行者の受け入れを推進することにより伊豆地域の観光産業の持続可能性を高めることを目的とする。

3. 事業効果

諸外国における伊豆地域の認知度向上を目的とした情報発信と旅行商品開発及び販売促進を組み合わせることで実施することによって効果的な外国人誘客が可能となり、将来にわたっての伊豆地域の持続可能性が高まる。

4. 主要事業

(1) インバウンド向け情報発信事業

- ・ 外国語ホームページ管理・新規情報の掲載等
- ・ 訪日メディア（新聞、雑誌、WEB等）への取材協力等による情報発信
- ・ J N T O、静岡県海外事務所及び県観光協会と連携した情報発信

(2) インバウンド向け旅行商品開発事業

- ・ 準富裕層対応プレミアムツアー開発
- ・ 地域資源を活かした各種体験プログラム等の開発
- ・ 旅行商品開発に伴う現地調査、旅行会社等のファムトリップの実施
- ・ 静岡県海外事務所及び県観光協会と連携した旅行商品の開発
- ・ 体験プログラム、交通・入場・食事コンテンツのインバウンド契約の推進

(3) インバウンド向け旅行商品販売事業

- ・ 準富裕層対応プレミアムツアー販売促進
- ・ インバウンド向け旅行商品の販売ルートの拡大、整備
- ・ 現地旅行会社及びO T Aを活用した旅行商品の販売促進
- ・ 商品販売を目的とした観光展への出展

○伊豆半島観光情報発信強化事業

1. 事業概要

伊豆半島全域の観光情報を横断的に発信するサイトとしてリニューアルした「伊豆観光公式サイト B-I Z U」の記載内容の充実を図り、13市町の観光ホームページへの誘導を図るとともに、周遊ルート案内サービスアプリ「Japan Concierge」により、市町観光ホ

ホームページと連動した周遊ルート案内サービスを行う。

また、Instagram や Twitter などの SNS を活用し、その特性を踏まえた効果的な情報発信を行う。このほか、会員向けに SNS 活用方法等に関する研修会を実施する。

2. 事業目的

「伊豆観光公式サイト B-IZU」や Instagram・Twitter などの SNS において、伊豆半島全域の観光情報を横断的に発信することで、閲覧者の利便性の向上を図り、来訪意欲を高める。

3. 事業効果

総合的に伊豆全域の観光情報を発信することで、伊豆への来訪客が、旅行前や旅行中に観光情報を取得しやすくなり、また並行して SNS やその他広告媒体での情報提供も行うことで、より幅広い層への効果的な観光誘客が可能となる。

4. 主要事業

(1) 情報発信強化事業

- ・リニューアルした「伊豆半島観光情報サイト B-IZU」の記載内容を充実させ、伊豆半島全域の観光情報を横断的に発信する。
- ・周遊ルート案内サービスアプリ「Japan Concierge」の継続運用

(2) SNS を活用した情報発信強化事業

- ・Instagram や Twitter などの SNS による効果的な情報発信の実施
- ・SNS による情報発信に関する研修会の開催

○ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

1. 事業概要

伊豆半島ジオパークは 2018 年度にユネスコ世界ジオパークの認定を受け、2021 年度に向こう 5 か年の新たな「基本計画と行動計画」を策定した。

ユネスコ世界ジオパーク活動として、本基本計画・行動計画に基づき、地域住民が主体的かつ継続して持続可能な地域づくりの取組に向け、ジオ関係者、ジオガイド・ガイド団体、各地のビジターセンターとも連携し、事業を推進する。

2. 事業目的

ジオパーク活動を推進していく上で、地域の住民がジオパークの理念を正確に理解し、伊豆半島への来訪者や次世代を担う子どもたちに伝えることが重要となる。このため、認定ジオガイド養成講座や認定ジオガイド資格証取得者のスキルアップ活動等により、

ジオガイド活動を推進する。また、ジオガイドの積極的な活用とジオパークを担う人材の育成により、ジオパーク関係者の拡大を図るとともに、ジオカフェ等の普及啓発事業や学校との連携、ジオツーリズムの推進等様々な活動を通じて、ジオパークの認知度のブランド力の向上と地域住民への愛着度の向上に努める。

3. 事業効果

ジオパークに係る人材の育成や普及活動、地域と連携し楽しくジオを学べるイベント、学校教育での普及教育を通じ、伊豆半島ジオパークの地域への更なる普及が進み、地域住民主導のボトムアップ活動の更なる定着を進める。また、ジオガイドやジオサイトを活用した環境に配慮したジオツーリズムの推進を通じ、ジオサイトの保全と利活用が進み、持続可能な伊豆半島の観光地域づくりに寄与する。

4. 主要事業

(1) 認定ジオガイド養成事業

- ・認定ジオガイドの資質の向上にむけたスキルアップ講座等研修
- ・認定ジオガイドの資格更新講習の実施、学校教育ジオガイド人材育成
- ・ジオ検定（1級から3級）の実施によるジオの普及

(2) ジオカフェ等開催事業

- ・ジオパークの普及啓発及び情報発信を目的に、地域の資源とジオパークの視点を通じ、楽しく学び、交流の場づくりとなるジオカフェ等を定期的実施。

(3) 学校教育との連携事業

- ・教育ワーキングの開催
- ・ジオ教育教材を活用した学校でのジオ学習の推進
- ・新規導入ジオ学習講師無償派遣事業
- ・小・中・高校・特別支援学校等との学校連携による普及活動
- ・ESD（持続可能な開発のための教育）活動拠点としての活動
- ・防災（減災）教育普及事業

(4) ジオツーリズム促進事業

- ・認定ジオガイドによるジオツアーの催行や自然の保全と活用に十分配慮したエコツアー、教育旅行、防災（減災）とも連携を図りながら、地域内の認定ジオガイドや事業者と連携して取り組む。

○ジオパーク調査研究事業

1. 事業概要

専門職員（研究員）による様々な専門分野の研究関連活動や学会への参加を通じて、

伊豆半島に係る研究の蓄積と理解の深化を図る。

また、ジオパーク活動の特徴の一つであるジオパーク同士のネットワーク活動のため、世界ジオパークネットワーク（以下、「GGN」という。）、アジア太平洋ジオパークネットワーク（以下、「APGN」という。）、日本ジオパークネットワーク（以下、「JGN」という。）への活動に参加し、調査研究の情報共有や相互交流を通じ当ジオパークの情報発信や情報収集を行い、ネットワーク交流や研究活動の強化を図る。

2. 事業目的

伊豆半島における学術研究の底上げを図るとともに、ジオパーク部門所属の専門職員（研究員）自体が研究を実践することで得る知見を実質的な保全活動や事業計画にも役立てていく。

GGN、APGN、JGNなどをはじめとしたジオパーク同士のネットワーク活動に積極的に参加し、貢献することにより、ジオパーク相互で活動の活性化を図りネットワークの構築を目指す。

3. 事業効果

専門職員による各専門分野の研究関連活動調査研究により、研究員のスキルアップが図られ、伊豆半島における学術研究の蓄積と情報発信によりジオパーク研究の認知度の向上と伊豆半島ジオパークの価値の向上に寄与することが期待される。

4. 主要事業

（1）研究関連活動事業

- ・ 専門職員による当ジオパークにかかる各専門分野の研究関連活動と学会等への参加及び発表（研究内容の地域内へのフィードバックによる認知度向上）

（2）研究活動支援事業

- ・ 伊豆半島における様々な分野での研究助成制度により研究活動を支援する。
- ・ 研究者および高校生による研究成果発表会の開催

（3）研究・学術ワーキング開催事業

- ・ 必要に伴い有識者によるワーキングを開催

（4）GGN・APGN・JGN活動事業

- ・ GGN・APGN・JGNが実施する各種プログラムへの参加・協力・貢献
- ・ ユネスコによる世界ジオパーク認定（再認定も含む）現地審査員の派遣
- ・ JGN全国大会、全国研修会への参加
- ・ 国際会議（モロッコ）、共同イベント等、PR事業への参加・協力
- ・ JGN連携企画展への参加

○ジオパーク地域連携事業

1. 事業概要

地域住民がジオの視点を理解し、ボトムアップの活動を自主的に継続、継承することがジオパーク活動の基礎であるとの認識のもと、これまで培った地域や域内事業者との連携を一層強化させ、ジオパーク活動によって持続可能な地域づくりに貢献する。

2. 事業目的

伊豆半島の様々な風景を描いたこども絵画展示コンクールの開催と地域内の各ビジターセンターとの連携による地域に関する認知度の向上を図り、子供たちへの伊豆への愛着を深める。

地域活性化事業を通じ、地域住民が、ジオパークや伊豆半島に関する知見の底上げを図りつつ認知度の向上を図り、来訪者に向けた伊豆半島の付加価値向上につなげる。

3. 事業効果

各地域の様々な関係機関との連携事業の実施により、ジオパークの認知度向上の普及啓発を図るための事業に取り組む。パートナーシップ提携事業者や地域と連携した様々な事業を行うことにより、ジオパークの普及啓発効果が期待できる。

4. 主要事業

(1) こども絵画コンクール事業

- ・伊豆半島の風景やジオサイトを題材にしたコンクール様々な風景を描いた絵画を小、中学生に募集し、伊豆半島各地で優秀作品の巡回展示を行う。

(2) 地域活性化事業

- ・再認定記念イベントの開催
- ・パートナーシップ提携事業者との共同事業の開催（静ガス、交通事業者）
- ・Webマップの制作、web広報、メディアへの取材協力等、各種広報事業
- ・ロゲイニング大会の開催

○ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業

1. 事業概要

2022年10月に再認定審査を受け、その際「改善勧告」は必ず出されることが審査員より明言された。それらは当ジオパークに示された課題であり、新たな活動への提言でもある。引き続き構成自治体、地域住民とともに取り組むことが求められる。

勧告内容への対応として、構成市町やビジターセンター、ジオガイドの皆さんとの連

携を密に対応し、ユネスコ世界ジオパークの再認定を目指して取り組む事業である。

2. 事業目的

勧告については適切な対応を行うとともに、評価を受けた取組についてはさらにその活動を励行して、地域主導の継続した取組みとして定着するよう努めなければならない。一方、国内外のジオパークやユネスコ理念を共有する世界遺産やエコパークの交流を促進していくことで、ジオパーク概念の紹介やジオサイト保全など、相互に有益な技術移転についても、日々の取組を審査員に説明する。

世界ジオパーク認定後も各国からのジオパークの視察を受け入れるなど、ジオパーク普及や能力支援を重ね、当ジオパーク活動のプレゼンス強化に努めていく。

3. 事業効果

世界ジオパーク認定時に示された改善勧告9項目の対応で、引き続き様々な活動により、行政、ジオガイド、地域の関係者とともにジオパーク活動を充実させ、世界ジオパークの認定継続を進展させ伊豆半島ジオパークの国内外での認知度と魅力向上を図る。

4. 主要事業

(1) 再認定対応事業（いずれも再認定後も継続した取組みが求められている事業）

- ・可視化向上事業
- ・文化遺産の情報発信・利活用事業
- ・パートナーシップ協定に基づく連携事業（葦山反射炉）
- ・上記の他、新たに改善指摘を受けた課題への対応事業（E S D含む）
- ・SDGs推進事業
- ・ビクターセンター連携
- ・東アジア文化都市事業

(2) 国際交流・協力事業

- ・国内外のジオ・エコパークとの交流促進
- ・アジア太平洋ジオパークネットワーク交流事業

(3) 多言語化・デジタル化情報発信事業

- ・英語での情報蓄積及び発信
- ・データベースの構築管理

○ジオリア管理運営事業

1. 事業概要

ジオリアは伊豆半島ジオパークの中央拠点として平成28年4月にオープンした施設であり、常駐するジオガイドによる訪問者への普及啓発活動、半島内のサイトの見どころ

るの紹介と解説、教育活動の拠点として活用されている。基本計画に基づき、ジオリアの常設展のほか企画展の開催（年3回以上）、イベントを開催し、ジオパークを楽しみながら学べる環境づくりを行い、半島域内の回遊を高める企画展示とジオガイドによる案内業務を実施する。

2. 事業目的

ジオリアの常設展や企画展、各種イベントの開催を通じ、観光来訪者・在住者（子供から大人までの）への教育普及と併せ、伊豆半島ジオパークの普及啓発を行う。

来訪者への案内業務は、伊豆半島ジオガイド協会に業務委託をし、引き続き、コロナ対策に万全を期しつつも、来館者への普及拠点としての機能強化を図る。

また、各ビジターセンターとのネットワークの構築を強化し、来訪者への情報発信を適切に行い、域内来訪者のジオパークの情報発信拠点として来館者の満足度の向上と域内への回遊を促進する。

3. 事業効果

新型コロナウイルス感染拡大による移動自粛や緊急事態宣言を受けての臨時休館などにより、開館6年目となる令和3年度の総入館者数は昨年度同様、コロナ前より大幅に減少（令和元年度比62%減の7,315名）した。国レベルの緊急事態であることを踏まえるとやむをえない措置であったが、令和4年度は、令和5年1月末現在で10,443名と回復傾向にある。新年度もコロナ対策に万全を期し、域内のユネスコ世界遺産との連携企画や域内の他の分野との新たな企画等により、伊豆半島ジオパークの拠点としての情報発信を強化し、来訪者（小学生から社会人まで）へのジオパーク活動普及を図る。

4. 主要事業

- ・ジオリアの管理運営
- ・常設展、企画展（年3回以上）、イベントの開催
- ・ジオ関連商品の販売

<その他事業>

1. 道路関連事業

- (1) 伊豆半島道路ネットワーク会議
「伊豆半島道路ネットワーク会議」のメンバーとして、伊豆半島道路ネットワークの利活用による地域活性化を図る。
- (2) 伊豆道の駅ネットワーク協議会
道の駅のネットワーク化や多様な観光情報を道の駅を起点に一体的に発信する「伊豆道の駅ネットワーク協議会」のメンバーとして、伊豆半島の周遊観光を促進し、観光競争力を強化していく。
- (3) “なごみの伊豆 なごみの道” 風景街道
伊豆半島全域を対象として活動する「“なごみの伊豆 なごみの道” 風景街道」の事務局として、風景街道関連の事業を実施していく。

<参考>

「“なごみの伊豆 なごみの道” 風景街道」

○地域

国道 135 号、136 号、414 号を中心とした伊豆半島内の道路周辺

○活動目的

伊豆の道が住民や観光客にとって“なごみの道”になるように、伊豆の道風景を住民主体のパートナーシップで守り、磨き、活かしていく。

- (4) 太平洋岸自転車道「日本風景街道」中部ルート連絡会

太平洋岸自転車道に接続・隣接する日本風景街道7ルートが連携、協力し、ナショナルルートに指定された太平洋岸自転車道と地域を結ぶ牽引役となるよう、取り組んでいく。

2. 大学との連携

地域の人材育成や、観光コンテンツの磨きあげなどに学問的なアプローチを図るため、県内にある大学との連携を進めていく。